

第3A(小)分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 生徒指導を軸とした「芯の通った学校組織」の構築
サブテーマ ～学校がチームとして機能していくための教頭の役割～
協議の柱 教頭として、教育環境整備の一助としての組織改革にどのように携わり、実働できるチーム学校を構築していくことができるか。

提言者 大分市立日岡小学校 徳丸克己

1 質 疑

- (1) Q ケース会議後、会議に参加しなかった職員を含め、全教職員への内容の周知はどのように行っているのか。
A ケース会議の内容は、その後の企画委員会や職員会議、及び、毎週の校内研修の生徒指導のコーナーで、今後の取組・支援の方針等、共通理解を図っている。
- (2) Q ケース会議のメンバーに病院関係者とあるが、どのように病院と関係をつくり、ケース会議のメンバーになっているのか。
A 現在病院と連携している特定の児童の拡大ケース会議に限り、病院関係者や児童相談所、各種専門家等に連絡をとり、出席いただいている。

2 協 議

- (1) 中学校の組織的な生徒指導体制を小学校に取り込みたいが、なかなか難しい。それは人的配置の違いが大きいの。中学校は学級担任以外に学年主任がいるが、小学校は生徒指導主任が学級担任と兼任しているなど、学級担任以外の配置が少ない。小学校では、授業中に問題が発生しても、管理職以外に対応できる職員が職員室にいないなど、現状の人的配置では厳しい面がある。
- (2) 生徒指導主事(主任)を中心に学年部との連絡が密にとれていると組織的に動くことができる。生徒指導主事(主任)が情報収集・情報共有のリーダーシップをとり、管理職への報告、また、必要に応じて、特別支援コーディネーターや外部専門機関へつないでいくなど組織的な動きが大切である。
- (3) 小学校での生徒指導主任の育成が課題である。会議で生徒指導主任よりというコーナーを設けるなど、リーダーシップを発揮できる場を与え、生徒指導主任としての意識が高まるように人材育成をしていくことも教頭の仕事である。

3 指導助言

- (1) 子どもが問題行動を起こすのは、背景に様々なことを抱えていることが多い。子どもの抱える背景をしっかりとらえ、必要に応じて病院や子ども家庭センター等外部機関と連携をとっていくことが大切である。
- (2) 職員が一枚岩となり、「チーム学校」を構築していくことが大切である。生徒指導に課題がある場合、生徒指導を軸として学校を運営し、生徒指導主任を2人体制にしたのは、管理職として英断である。また、現在はSCやSSW等専門スタッフとの連携を含め、チームとしての対応が求められている。
- (3) 活性化している組織では、ミドルリーダーが存在しているケースが多い。ミドルリーダーの育成は、学校の組織力の向上、学校経営の円滑化に寄与すると言える。組織には、必ずミドルリーダーになるべき人がいる。管理職がその人を褒め、認め、励まし育て、学校を活性化させていくことが大切である。